

R1・8・6

第1号

通巻147号

# 学院通信

発行  
金光学院  
719-0111  
岡山県浅口市  
金光町大谷1486  
TEL (0865) 42-3115  
FAX (0865) 42-3114



聖蹟巡拝 (泉勝院)

## 「金光様の御祈念の中身として」

学院長 高橋 寛志



男子十一名、女子四名の学院本科の方が入学して二か月、男子一名、女子六名の特科の方が入学して一か月が経ち、この学院通信が発行される時は、特科の方はもう卒業しておられる。今年は本科の人数が少なく、残念な気がしていたが、少数精鋭で、本気でやる気のある者が入ってきていると感じている。特に御祈念の時は大きな声で、勢いがよく、人数が倍ほどいる感じである。大きな声で力を入れての御祈念には、パワーがあり、力強い感じがする。その神様に力いっぱい向かう姿勢は、大切にしてほしいと思っている。

唯、御祈念の声の大きさが、人と比較してどちらが大きいか、などと競い合う感じで、人に向かっただけの意識に囚われると、おかしなことになってしまう。あくまで、神様に向かっただけでなければならぬ。そのことについては、神様は、「大きな声でなくても神には聞こえる」と言われている。特別に大きな声である必要はないが、力いっぱい神様に向かう姿勢は大切にしたいと思う。そういうことから考えるのであるが、私達の祈りは一人一人別なものではなく、金光様の祈りの中で、神人あいよかけよで立ち行く世界を顕現するという御神願、そして、総氏子身上安全、世界真の平和実現という大きな願いに向かっただけ、一つにまとまっていくなかにはないのかと思う。祈りを金光様の祈りの中身として、一つの塊にして神様に届けるイメージである。

学院では学行・信行と分けているが、信行の中心になるのが御祈念であると思う。どのような御祈念がいいのか。やはり金光様の祈りの中身として一つにまとまっていき、勢を揃えて祈りを強く押し出すような祈りの稽古を信行の中心にしたいと思っっている。そのように、金光様の祈りの中身になる責任感をもって、一回一回の御祈念を大切な祈りの稽古として取り組んで行きたいと思っっている。

# 学院修行について

学院次長 坂口 光正

立教百六十年のお年柄をお迎えする本年五月十五日、全教のお祈り添えを受けて男子十一名、女子四名合わせて十五名の本科生が入学いたしました。これまでも、一つの班の構成が四名ということはありませんでしたが、女子全体で四名ということは前例がなく、綿密に信行日割を組んで、学院として大事にしている信行の



本科入学式 (本部広前御祈念)

あり方が十全に進められるようにしています。

本科入学の一月後の六月十五日には、特科生七名(男子一名、女子六名)が入学し、女子は合わせて十名となり、本科・特科合わせて二十二名が学院修行に取り組みました。

本科生にとってこの一月は、特科生の生活をサポートすることで、改めて「行」としての学院生活を頂き直すきっかけとなる期間でもあります。授業は別々ですが、参拝、洒掃、食事を共に過ごし、湿度の高い梅雨の時期ではありませんが、大きく体調を崩すことなく、特科生七名全員、七月十五日に無事所定の課業を修了し、卒業いたしました。真に有り難いことと思わせて頂いております。ここからの御用成就を祈らせて頂きます。

学院修行の基本の一つに「不自由行」というものがあります。「不自由を行」と思い、物を不足に思わず、物を苦にせず、万事、神様を一心に頼み、万物をあ



信行輔導期間 (ご祈念作法)



図書館見学

りがたくいただくという心を磨いておると、早くおかげが受けられる」(理I山定41)というみ教えがあります。学院では、携帯電話やスマートフォンといった通信機器の持ち込みを禁止しております。携帯電話は、便利で今や生活必需品と言えますが、ともすればそれに依存し、心が縛られてしまい、神様に心を向けることを見失うことも考えられます。前期の信行目標である「神に心を向ける」ために、ご霊地の天地自然の中に身を置き、日常の起居一切を信心の稽古として取り組み、そして天地の親神様と、分け御霊としての内なる神との交感をはかつて、日々の修行で信心を深めてほしいと思います。関係各位のお祈り添えを、よろしくお願いいたします。

## 一日の信行内容

(時間)	(信行内容)
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝礼
9:00	午前の課業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の課業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念
	自修・入浴
21:00	閉門
22:00	消灯

## 人事関係

- ・書記仁科明日見、十二月一日付で助手に任命。
- ・助手由布節子、四月十五日付で辞任。
- ・講師堀江芳則、五月十四日付で辞任。
- ・教徒笠井佳実子、五月七日付で書記に任命。

## 講義科目・担当者

教会・布教科目	教団科目	教祖・教義科目	信修科目
礼典(祭詞)	結界取次 直信・先覚 教会活動(各種活動)	教祖 教義	本教概説
堀江 芳則	金原 光三 真田奈保子	坂口 光正 佐藤 光貴	高橋 寛志
田中 照彦	安部 美雄 利光 康二	河崎 信示 加藤 実	

# 「1」までの歩み

## ■ 信行輔導期間

学院では、入寮してからの十日間を信行輔導期間と定め、基本日課を習得し、修行としての学院生活を進めていくために、前年度の卒業生であるOBが、奉仕・待命・炊事・洒掃などの生活全般の指導に当たっている。本科生は、慣れない黒衣に身を包んで、OBから本部広



信行輔導期間 (洒掃指導)

の修行生としての在り方を学んだ。OBの方々からの実意で丁寧な指導をいただき、今年度の学院修行が始まった。

本年度のOBは以下の通り。(敬称略)

- 安武 信生 (福岡・合衆)
- 北山 龍馬 (熊本・南関)
- 金保 大樹 (大阪・林寺)
- 石原実可子 (滋賀・近江野洲)
- 田邊 光代 (山口・長門船木)
- 河津 恵子 (兵庫・宍粟)

## ■ 聖蹟巡拝

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。六月二十日には、本科生・特科生合同で教祖様ご生家に参拝した。往路では、早馬神社、荒神社、森田八右衛門の墓地などを巡ってご生家まで歩き、ご当主・香取航師から、香取

家、教祖様やとせ様にまつわるお話を伺い、教祖様直筆の神名書付、天地書附とせ様の婚礼衣装など貴重な品々を拝見させていただいた。復路には、教祖様実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院を拝観し、ご住職のご修行時代のことなどのお話を拝聴した。その後、占見村の氏神の大宮神社まで山道を歩き、拝礼後、拜殿で揃って昼食をいただき、帰院した。七月六日



教祖様ご生家

には、本科生が四グループに分かれて、木綿崎山周辺を巡り、教祖奥城、立教聖場、歴代教主奥城、小野邸跡などの聖蹟を辿った。

この他、今秋には西大寺観音院、吉備津神社、鞆津祇園宮等を訪問する予定である。

## ■ 広島平和集会

学院では、世界真の平和達成の祈りを新たにし、具体的な取り組みにつながることを求めて、平和学習を実施している。

七月二十日に、ヒロシマを訪れ、平和記念公園内の慰霊碑の巡拝、被爆体験講

話の拝聴をし、その後、今年の四月にリニューアルオープンした平和記念資料館の見学をした。そして、午後からは金光教広島平和集会(原爆死没者慰霊碑参拜式、被爆のどん底から、原爆死没者慰霊祭、合唱)に参加した。

戦後七十四年の時を経て、当時の様相を物語る資料を見て、被爆体験談を聴き、戦争の悲惨さを感じるとともに、信仰者として慰霊と平和への祈りをもって、後世に正しく伝えていくことの大切さを感じたようである。



広島平和集会 (合唱)



# 特科生 卒業

今年度の特科生七名(男子一名、女子六名)は、六月十五日に入学し、七月十五日までの一か月間に及ぶ学院修行を進めた。

学行では、教典ゼミ・祭式・祭詞等などを受講し、信行では本科生の班に加わって、参拝、洒掃、炊事等を行じ、奉仕の

お役にも当たった。またそれぞれが願いを立て、ご霊地での自主修行に取り組んだ。それぞれが意欲をもって修行に取り組む、教師としての基礎的素養を習得し、ここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、先に入学をした本科生と互いに磨き合うことができたことは、大変ありがたいことである。ここからの御用成就を祈念する。



授業風景 (祭式)

## 学院生活を振り返って思うこと



兵庫県・尼崎教会  
芝田 素子

学院入学前のお届をさせて頂いた時、「教祖様は神様から、百日修行を楽しめとおっしゃられた。次元は違うが、一か月の学院修行を楽しませてもらいなさい」と、先生に送り出して頂きました。

タイムスケジュールは、過密で授業、参拝、洒掃という毎日です。特科の方は教会後継を目の前にされている方が多く、責任と使命を背に真剣な修行振ります。私は、ご霊地ならではの修行として、金光様のお出ましを頂くことを定め、続けさせて頂きました。参拝道にもお徳が備わっているようで、先輩、先師の面影に励まされました。また、学院は、教室、階段、回廊、線引きの残る前庭などにも、先師らの熱い思いが手ざわりとして伝わって来、百年以上の歴史を尊く思わせて頂きました。聖蹟巡拝では、教祖様の半生を追体験させて頂き、教祖様に親しくまみえたように思えました。また、祭式の授業では、作法一つ一つに神様に向かう心構えと意味にかなったものがあることを学びましたが、所作には細かい注意点が多く、老体に鞭打つ授業でした。

授業では、ここまで漠然と理解していた教祖様の信心のポイントに、新風が吹き込まれた思いがし、知識の整理をさせて頂きました。学院長、



特科修徳殿入殿

講師の教話では、辛抱と祈りが必要だと教えられる、貴重な時間でした。

朝からうぐいすが暗き、雨後の木の根元には、きのこが生えて、カタツムリが集まって食べているのを観たり、かぶと虫やかまきりが参拝の列に加わり、喜びを与えてくれたりと、嬉しく楽しい日々でした。

## 御祈念と洒掃と汗と



福岡県・小郡教会  
的場眞理子

朝から雨の降る中、真新しい黒衣を少しでも濡らさぬ様に入学式に出席した事を、遠い昔のように感じます。

それから、毎日の御祈念と洒掃で、慣れない下駄に悪戦苦闘しながら、まとわりつく様な湿気と蚊と共に一日一日が経

過して、一日の終わりには、フラフラの体を寮の湯船で癒す日々を重ねてまいりました。

しかし、気が付くと入学前に通院する程、痛みがあった手首や足が、いつの間にか軽くなり、持参した鎮痛剤や湿布をほとんど使うことがない程に大きなおかげを頂いていたのでした。「金光様ありがとうございます」と思わず口にして、涙が後から後からあふれてきました。どんな名医も薬も必要ではない、ただ一心に真心中で修行させていただけば必ずおかげはあるのです。

学院特科での一か月は、祈りの中でおかげを受け続けた日々でした。今回の経験を教会御用にしっかりと生かして、お礼の御用として、神様に喜んで頂ける様に邁進したいと思っております。



特科卒業証書授与式

# 学院生の声



## 黙って治める



愛媛県・上宇和教会  
三好 儀生よじき

「神に心を向ける」これは学院前期の信行目標です。神に心を向けるためにはどうすればいいか。と考えたとき、起こ



求道の日

る全ての事柄を神様の働きとして頂こうと思いました。集団生活の中では、意見の食い違い、自分の理解できないこと、様々な問題が起こりますが、その時の感情を相手にぶつけることは、相手の中の神様に対してご無礼になるのではないかと思いました。そこで、私の実践課題を「集団生活の中で起こる問題を黙って自分の中で治める」にしました。入学して一か月半がたち、ただ黙って我慢していることにストレスがたまり、早くも壁にぶち当たっています。何のために我慢しているのか、自分と向き合ったとき、神様の働き、願いを分かって頂きたい。「黙って治める」ということが「自然」に出来たときに広がる景色を見たいからだと気づきました。そこに至れるよう起きてくる出来事に神様を感じながら、受けて受けて受けぬいて、我慢さえも必要としない景色が見られるように、取り組んでいきたいと思っています。

## 「知る」ことの喜び



京都府・伏見教会  
橋本 美子

「身近なことなのに案外知らない」と感じたことはありませんか。私は大学卒業

後、就職の為に初めて地元京都を離れて生活しました。近年、京都は人気のある観光都市として知られていますが、周囲から京都について尋ねられてもわからないことが多い

く、私は帰省の度に京都の名所をまわり調べていました。そうしているうちに、改めて京都の良さに気づき、好きなのことも増えました。

金光教についても、私は物心つく頃から教会で生活してきましたが、正直知らないことばかりです。それゆえに自分を感じなく思う時もありました。ですが、ありがたいことに学院は金光教のことを十分に学べる環境が整えられています。両親も「修行に専念しておいで」と送り出してくれました。私は今、知らなかったことに出会える喜びを日々感じています。今後さらさら知識を深め、金光教の良さに気づき、好きになっていきます。



畳上げ



消防・避難訓練 (救命救急講習)

令和元年度 教区別入学者数 ( )内の数字は男/女

